

更不第丁時報

經濟使節派遣に  
關する一考察 (一)

要性に鑑みて報道するのであり、何等誇大的な鳴物入り宣傳を志すべく、もしチヤナリズムのさうしを商上に影響を及ぼす出来事と報せしめ、いふとするならば、チヤナリズムとしての存在価値は一体何處にあるか。

(二)

然して日英兩國貿易促進の方法論として、鳴物入りの經濟使節派遣を推すべし。第三國の反動を慮りて秘密工作によるべし。と云ふ説く、チヤナリズムありと聞くが、第一第三國の經濟政策上は効果互現はす。概して第三國の經濟政策が、第三國の耳に入る事なくして行はると思ふ事、其の自体が大きな誤謬不足である。第三國に於ける第三國の情報機関は、幾度し過ぎてゐる。如何なる國との經濟的交渉と當面したるに於ける限り、其は第三國の情報機関に追いつき得ぬのである。第三國は其の追いつき得ぬ情報入手の手裏と便宜を保持してゐるのである。使つて秘密工作をなすと云ふ事は、却つて第三國の注意を失脱せしめ、今度は却つて其の第三國こそ秘密工作によりて其の裏を行くと云ふのが常道である。その場合第三國の秘密工作は吾人の耳には傳はつて来ない。と云ふのが落すである。然して經濟使節派遣に對しては、鳴物入りは禁物と云つてゐる者があるが、派遣するその其の自体の誇大的に宣傳をなすわけは、チヤナリズムの其の經濟上の重

の延長内閣樹立は必然と見られる。而して軍閥是敵のサンタフェ州、懸念は政界一般よりラザカル、プロク対保守派政黨の天下分け目の闘争、原合戦と見られ、後者の懸念は、行に敗戦の憂目を見せラザカル、プロクは大統領選挙に於ては、保守派政黨の精華に押されて、後進するとの観測が行はれてゐる。事情、斯くの如くである上は、米の大統領、現在の候補はアルマス、元々現ラザカル院總裁アルマスは、大統領選挙時、閣僚として入閣して居る事とあるものであり、ラザカル院との間と満更ら悪くはないのである。ラザカル院は、ラザカル院の樹立は確實視せらるゝに至つてゐる。

然して予測に反する場合は、政権はラザカル院に落ちるのである。大統領選挙は四月の月に控へた。今日に至ると米ラザカル院に於ては、候補者の指名が、院内には、政戦に勝算なきを以て大統領選挙に對し不参加論を唱へる者もあつて、蓋有様である。今の米ラザカル院

ついで遂行するべき具體案の一つの現はれてゐるのである。而して派遣に當りて一時的な當國の經濟政治的現象のためには、この効果ある經濟使節派遣を遂行し、即ち一時中止し、其のニエウスが第三國の熱知する迄とあり、今日、今度は更に前以て第三國に防衛工作熟考の時間と余地を充分に與ふるが如きは甚だ拙劣なりと吾人は信ずるのである。

再び遂に議定す。積極的働きかけよ、非常時の決意を以て日英經濟關係を密化のための努力をすべき時である。不便支障を突放して近進すべき時である。假令經濟使節の、當國現時の政治經濟情勢の影響によりて、所期の効果を得ることなしとするに及ぶと、落胆すべきではあり、經濟使節の百分の効果を發揮し得べき機が時に之を呈し、得れば之にこそ是事あり、下篇、今は在政府の時期を待たずして、余りに周圍の察見し過ぎである。第一節に述べた日本の轉戦時的体制樹立に伴ふ經濟的要素の増進、今米ラザカル院に於ては、緊張の度に拍車をかけらるゝ。第三國經濟陣の暗躍工作の積極化、照例の商品分散費の必要、及び新市場の増加による高率高價取の可能性、海運の利益、第三國の支障、何等を以て、ある日英貿易の立場、等々を考慮に入らるれば、

現在米ラザカル院の過商情勢に於て、際少しと云ふものは打込まれる。而して守るべき結果は、行つて守り終へたに終始し、と云ふれば、退却は余能なくされる。不屈不撓の精神を以て、日英關係全面的な好轉のため、絶えず積極的の働きかけること、此の在兩國の要望を掛け合はせらるゝと吾人は深く信ずるのである。(終り)

党派別  
當選者数

当選者 (無投票者)	三
選者 (投票者)	二
千後士 (現任)	
民政黨	一六八
政友會	一五六
同盟會	一七
社大	三六
國同	八
東方會	一〇
小派	八
中立	二四
合計	四二七

!!る終挙選總

反政府陣営強化さる 政府總幹職等難局打破に一決

東京三日 政府は三日の閣議で八大政界に近連する事は決定した...

当選者氏名(入電済分)

- 東京 河野 原 玉茂 高橋義次 阿部重男 森 春彦 加藤勤十 鈴木文治 山田清 中村三吉 八並武治 中村清一 京都 水谷長三郎 中村三三 京都 水谷長三郎 中村三三 大阪 井原重光 南 義一 藤原永吉 田中万造 小泉大次郎 尾口誠一 富山 飯田末夫 魚田喜太郎 土倉宗明 神奈川 飯田末夫 魚田喜太郎 土倉宗明 愛知 加藤勤一 塚本 正男 山崎清吉 服部清一 榎尾辨三 小笠原三九郎 鈴木正吉 山口善六 群馬 飯塚善三郎 清水留三郎 高木泰太郎 春日成章 山崎健二 堀川誠三 山田順作 清水善太郎 山口忠五郎 平野光雄 宮本雄一 坂下真一 津久良忠作 倉元忠一 坂下真一 廣島 長山忠則 土屋 環 作高太郎 宮沢 裕 森田福一 内田信也 中崎俊秀 茨水 豊田豊吉 葉梨新五郎 中井川浩 川崎峰太郎 大内竹之助 赤城崇徳 坂見 章 佐藤洋之助 飯村五郎 大島實吉 渡辺安国 日代正春 山本厚三 板谷順助 坂田利吉 一柳仲次郎 速山房吉 木下成次郎 東條 貞 南雲清策 東 武 林 路一 坂本幸太郎 松浦周太郎 井上知雄 小泉朝也 坂方幸太郎 津崎尚武 滋賀 坂本幸太郎 青木孝貴 森 孝太郎 田中善立 熊本 安達謙藏 松野鶴平 木村正茂 石坂 茂 岩手 高橋善太郎 八角三郎 青森 小笠原十三 五藤鉄馬 森田十次郎 岩手 高橋善太郎 八角三郎 福島 伊藤 巖 三浦寅雄 曾木重貴 鈴木健太郎 中野虎吉 八田宗吉 中西泰良 中野虎吉 久木英雄 菅野善三郎 青山 小笠原十三 五藤鉄馬 青森 小笠原十三 五藤鉄馬 岩手 高橋善太郎 八角三郎 秋田 川原清忠 小田義孝 中田義忠 新田保右門 中川繁治 中田義忠 新田保右門 中川繁治 神尾 伊礼繁 森島明長 嶋山司長

KEROFIX DEL SR ALEMAN (MARTIN) M. SEITZ & Cia. EXPOSICION Y VENTA TALLER DEFENSA 321 CHARCAS 4511 U.T. 33-AV-1529 U.T. 71-8998

至急入用 切花出荷用カミ オンの老練なる 運転手 好条件にて備ひたし 賀集 (注意) 午前中レ、口市場又は Calle Zapata 510-C-1 面談致したし

尋木人 長崎県南高来郡杉谷村出身 宮崎直三郎殿 右本人、住所御承知、方ハ御手紙 作ラ至急、第一報載下願上候 伯国聖州ハウリス、延長、線 カリヤ取郵函ハ、海老原方 獨宮崎直次

秋田 川原清忠 小田義孝 中田義忠 新田保右門 中川繁治 神尾 伊礼繁 森島明長 嶋山司長





### 日会役員会構成さる

#### 本日夜第一回役員会開催

去る三月廿八日の定期総会以来未だ一ヶ月余、日会役員会構成は未嘗有の波瀾曲折を経て過級の新役員会が漸く組織を完成し、去る一日日会計監査林憲次郎氏の承諾を最後に役員十四名、会計監査二名の会決決定を見た。仍って日会では本日午後九時九時より本年度新役員による第一回役員会を開催し、席上会長、副会長、幹事、会計等を選挙すること、あつた。新役員左の通り

### 農業実習生は悲観してゐる

#### 蔬菜組合実習生懇談会を聞く

既報一週前、天のたれ一週延期とあつた蔬菜同業組合主催の研究會及び実習生の懇談会は去る二日午後四時から同会事務所にて開催された。経営者出席二十名、先づ中次代副会長の挨拶を述べ、各々自己紹介をすし、次いで三川組合長は実習生の質問に答へて蔬菜同業の交通と、今般日本人の入国困難の折からの諸君は各事業の後継者となることを考へて努力して貰はねばならぬといふ述べ、次いで中次代副会長は向日本を考へてゐる半で来遊して見て大々相異してゐるといふ感想を述べ聞かして貰ふたいと述べれば七名の実習生々々それらに答へた、それらより

感想を綜合すれば大体次の如きものであつた。即ち(一)生活様式

### 当選者氏名(四ページ)

- 和歌山 松山常次郎 山本圭一郎 西田茂平 小山谷三 田淵豊吉 世精私一
- 島根 原夫次郎 櫻内幸雄 高橋四三郎 島田俊雄 佐藤三 河島三三
- 香川 前川庄一 藤本助裕 宮脇長吉 三土忠造 大野庄太郎 松浦伊平
- 高知 大石大 富田幸次郎 長野長吉 佐竹晴記 佐々好秋 林謙次
- 奈良 江藤源九郎 福井甚三 森宗三 松尾四郎 八木逸野
- 愛媛 砂白重政 高畑太助 村上四郎 川上哲太 小野寅吉 村瀬武雄
- 新潟 武田徳三郎 増田義一 河合直次 三宅正一 八竹貢一 加藤知正 今坂留之助 佐藤健之助
- 石川 永井村太郎 長谷長次 青木憲三 櫻井共五郎 喜多宗一郎
- 岐阜 木村作三郎 伊藤栄一郎 三田村武雄 清 寛 近田鋭吉 大野伴隆
- (徳島 長崎 大分 福井 山梨 三重の六県は省略す)

### 雄辯大会を顧みて

#### 宮園徳二

四月四日開催の日会青年会主催の雄辯大会壇上に於て「一匹の夜盗虫」題下に一節を辯じ、其間「三等国民より心付さず、其の生活するとは我等日本国民の恥辱あり」と新聞紙に発表せられた在日日本人カフネ店従業者の感情を害したるは実に吾人の遺憾千万に堪へざる處にして、吾人の言はんは欲する所は要は一等國民たる日本精神を忘るべからずと辯じたるに過ぎざるも斯もカフネ店従業者を憤激せしめたる事は何とも申訳なき次第でありませぬ。斯の如く現象並に新聞記者諸君に吾人の意中を徹底的に注入り出来あかつた事は吾人の未だ研究録磨の不足、不徳の致す次第でありませぬから断じて職業的優越の論旨で無かつた事、御諒察下され吾人の失言を新聞紙上に発表してカフネ店従業者に謝意を表する者あり(一九三七・五・一)

### 在日地方日本婦人会

#### 第三回定期総会

在日地方日本婦人会は去る二日午後三時よりアルサニ日本館小学校内に於て第三回定期総会を開催、会長

### 官宴会の秋酬

其の一 片山良平氏の新事業の首

辻清子夫人同会の挨拶を述べ、次いで前川夫人より「如く会務会計報告あり一同之を承認、次いで前川夫人は本年度の剰余金一三四ペーソ、仙の処分法を議場に計れば、半分は同会基本金に繰入れ、残額は十月頃「活動資金」を備へ、その前慈善事業を遂行し、その収入を合して南野地方慈善病院に寄附するに可決、引続き本年度の決算推選を行つた左の如く決定、更に会費数は現在五十六名、当日の出席者二十名

其の二 有内善平氏長男切次(君)は瑞穂学園入学生の代表として八日のアチスルで日本へ出発する事にあつたので去る一日夜午後八時より、その手紙に於て、父及び母の知友約五十名に招き盛大な別会を催した。席上菅原善野、岩下、斎藤、新宅、兼次、水野、アゲエ(瑞穂学園定数)秋葉アベルト諸氏の送別、哲天君、府内六

辻清子夫人同会の挨拶を述べ、次いで前川夫人より「如く会務会計報告あり一同之を承認、次いで前川夫人は本年度の剰余金一三四ペーソ、仙の処分法を議場に計れば、半分は同会基本金に繰入れ、残額は十月頃「活動資金」を備へ、その前慈善事業を遂行し、その収入を合して南野地方慈善病院に寄附するに可決、引続き本年度の決算推選を行つた左の如く決定、更に会費数は現在五十六名、当日の出席者二十名

其の三 サルタ市カフネ日本の共産者吉崎典吉氏は夫人及子息四人を八日のアチスルで帰国される事に、二日、たたるま事に知友三十名を招いた。

コスキン療養所現状

去る廿五日コスキンに出張せる

日会幹事塩沢長助氏談

コスキン療養所の土地及家屋購入... 去る廿五日コスキンに出張せる...

土地及家屋購入は契約書が成立し... 四月廿六日に付金を渡した...

既に御承知の如く購入価格は七... 四百ペソの人費を要する...

及び増築費に充当するため、此... 御挨拶を仰がらるるの意向と考へ...

塩沢氏がコスキン療養所の現... 状につき往訪の記者に入居後の...

必要とする個所が多い、それ... には要する経費を算定四十五百ペソ...

本年も理事制で進む！

在亜日本人青年会定期総会

花井氏を運動顧問に推薦

在亜日本人青年会が第一回... 定期総会に去る三十日定刻...

理事十五名決定

理事十五名決定... 去る五月十五日理事選挙...

- 藤坂克男(三五) 櫻井節(二三) 若山(一一) 藤田正夫(二二)...

ALMACEN NISHISAKA 日本産敷 文化住宅 建築... KEROFIX DEL SR. ALENAN... 製作販売は修...